

人がその人らしく人生を全うするお手伝いを

水戸市 田邊 唯克

次なるステージで、自分がどう生きていきたいか、突き付けられた不本意な現実の中で田邊さんが見つけたものは…。

55歳の決断

私が産業カウンセラーという資格を知ったのは今から7年前、その頃私は役職定年と言われる55歳を迎えており、お世話になった職場にも一定の責任は果たしたかな、これからは自分のやりたいことに力を注いで行こう、と具体的な行動を考え始めていた時でした。自分の半生を振り返った時、私にはもともと「人に係わること」をしていきたいという強い思いがありました。情報を集めるなかで、そんな思いを具現化させてくれるのが産業カウンセラーなのではないかと考え、再び自分にチャレンジすることにしました。

運命の再チャレンジ

再び、と言ったのは、私は一度転職を経験しているからです。今でこそ珍しいことではありませんが、今から30年ほど前のことで、自分にとっては大きなチャレンジでした。その頃、私は東京の生命保険会社で数千億円の資金運用を任されていました。当時「新人類ファンドマネージャー」という言葉がもてはやされていました。正にその一人でした。時代はバブルの絶頂を迎え、私は日々市場の

動向をモニターの画面を観ながら売買を繰り返す刹那の時間を過ごしていました。それはそれでやりがいも感じていましたが、浮かれた時代に違和感もありました。

そんな時、水戸に住む父親が心筋梗塞で倒れました。幸い命は取り留めましたが、この事を契機に、長男である私は、運命に導かれるように実家のある水戸に帰って来ました。地元に戻れたのは、地元の銀行が証券運用の経験者を募集していたこともありました。

実はこの転職先での経験が、「人に係わること」をしたという思いに繋がって行くことになるのです。

不本意な体験の中から

転職して先ず驚いたのは自分の仕事がない事でした。仕事があるから採用募集があったと当然思っていたのに、これといった仕事がないのです。後で分かったことなのですが、私は組織内の紛争に巻き込まれていたのです。その当時、証券業務は一部の専門家が行っているブラックボックスになっていました。それを開かれた組織にしたい人事部門が、中途採用で外部の人間を入れることにより体質を変えたいと考えていたのです。つまり、



私は、始めから証券部門からは全く歓迎されない存在だったので。

それでもまだ30代前半だった私は健気(笑)にも体質を変えたいと孤独な戦いに挑んでいました。如何せん、タテ社会の組織の中で私の評価は×が並び、疲弊し自分を情けないと責める日々でした。

段々と、食べ物や喉が通らなくなり、夜中に目が覚めて眠れず、胸に息苦しさを感じるようになっていきました。内科で診てもらいましたが異常なしで、自分の不甲斐なさにも自分を責めていました。そんなある日、道を歩いているのに、まるで雲の上を歩いているような感覚に襲われました。何かフワフワして接地感がないのです。これはいけないと思ひ精神科を受診しました。もうこじか話を出れるところがないと思ったからです。問診票を書いた上で1時間近く饒舌に職場環境や経緯を話す私の言葉を止めてお医者さんはいきなり「あなた鬱ですね」と言ったのです。私は不調の原因は精神的なものだろうとは予想していましたが、いきなり「鬱」と言

われるとは思ってなかった。「えっ？」と
いったまま絶句したのを覚えています。当時
は「鬱」に対する理解度も低かったため、私
は自律神経失調症との診断書を持って2週間
の療養に入りました。幸い抗鬱薬が効いて2
週間後には仕事に復帰しましたが、まだ復職
支援プログラムも定かではない時代だったの
で、体調不良をだましまし日々の時間をや
り過ごしていました。

結局、自分でも回復したなと思うまで相当
の時間がかかり、私の30代後半は不本意な時
間となりました。ただ、不本意ではあっても、
いま振り返れば無駄ではなかったと感じてい
ます。自分がそうした時間を過ごしたこと、
これまで自分には見えていなかった周りの方
の気持ちや生き辛さみたいなものを少し感じ
ることが出来る様になったのです。そして、
本来持つその人の能力や才能を生かしきれず
に人生を過ごしてしまうことの理不尽さのよ
うなものを強く感じるようになりました。

繋がることで見えてきたもの



話がやっと最
初に戻って来ま
した。私が「人
に係わること」
をしたと思う
ようになったの
は、自分のこん
な経験が役に立
つことがあるの
ではないか、人

がその人らしく人生を全う出来るお手伝いが
少しでも出来たらと思っただけです。

苦勞して産業カウンセラー資格を取得した
後、まず私が心掛けたことは、産業カウンセ
ラー協会の行事や自主勉強会に積極的に参加
することでした。資格を取得したからといっ
て、すぐに関連する仕事に就けるわけではあ
りませんし、この先、カウンセリング関連の
仕事に就けたとしても、自分一人の力で様々
な相談や状況に対応出来るとは限りません。
そのためリファーマー先、相談先を多く持つこ
と、つまり自分のネットワークを構築するこ
とがとても大事だろうと考えました。また、
自分の中にカウンセリングマイナンドを育てる
ためにも積極的に産業カウンセラーの方々と
繋がりをもちたいとも思いました。

会員ねつとわーくや、カフェふらつと、茨
城事業部の月例会、全国研究大会など、時
間の許す限り協会や支部の行事に参加しまし
た。傾聴ボランティアも水戸から柏に何度か
通いました。また、支部認定の会員学習グ
ループにもお世話になっていきます。私の住む
水戸から通える範囲で、すぺーす051、
ほほえみ、シクレールつくば、のーす、
などです。参加されている皆さんの学びの姿
勢や、蓄積された知識や経験のお話、実際に
携わっている支援等の話、ピアカウンセリング
グ等々、毎回刺激を貰って帰ってきます。

こうした繋がる活動を楽しみながら続けて
いると、不思議なもので、自分でやりたいと
考えていた「人と係わること」が、向こうか
ら自分に近付いて来てくれました。

私は、現在、アウトリーチ機能のある電話
相談員をさせて頂き3年になりますが、きつ
かけは会員学習グループで知り合った方から
お声掛けを頂いたことでした。電話では様々
な悩み事や気持ちを聴かせて頂いています
が、職場でのストレスからメンタル不全に悩
んでいる相談者も多く、まさに自分が苦しん
で来たことに対し微力ながらも支援すること
が出来た事になり、機会を頂いたことをとて
も感謝しております。

また、本年1月には東関東支部の会員部
員の委嘱を受けました。これもまた人との繋
がりの中で頂いた役割だと思っています。会
員同士の交流の機会を多く設けて良い出会い
を創出出来ればと思います。特に傾聴ボラン
ティアでは、水戸周辺地区の纏め役をしてい
ます。何か活動したい、という方、大歓迎
ですのでぜひ仲間になってください。

さらに、本業の仕事も、昨年から銀行子
会社で人材紹介業務を行うことになり、私が
キャリアコンサルタントの資格があることか
ら、立ち上げから事業構築を任されてスタ
トしています。

豊かな人生のために

55歳で「人に係わること」がしたいと思っ
て始めたチャレンジは、少しずつ実を結んで
きました。新たにカウンセラー資格を取得され
た方、取得したけれど何からしていいのかわ
からない方、ぜひ積極的に人との繋がりの機
会を持ち大事にして欲しいです。必ずやあな
たの人生を豊かなものにしてくれるでしょう。